（様式３）

# 授業改善プラン

| 地域名 | 東上総教育事務所 | 学校名 | 大多喜町立大多喜小学校 |
|---|---|---|---|

## １．課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和５年度までの全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、記述式の設問の正答率が特に低く、人物の相互関係や、人物像・全体像を読むこと、自分の考えをまとめることなど「読むこと」の学習過程における、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」に課題があった。令和６年度の調査では記述式問題などで改善が見られた他、「構造と内容の把握」に係る設問では、文章の構造を理解し、内容を正確に把握する力や、登場人物の関係や物語の展開を正確に捉える力が身に付いていることが分かった。「精査・解釈」に係る設問では、文章の細部を読み取り、深く解釈する力や、文章の意味を深く理解し、自分なりの解釈を導く力が身に付いていることが分かった。一方で、「考えの形成」「共有」に課題が残っていることが明らかになった。設問毎に分析すると、「考えの形成」に係る設問では、登場人物の行動や心情を理解し、自分の考えを深める力が身に付いていないことが分かった。また「共有」に係る設問では、わかりやすく自分の考えを伝える力や、伝えたい内容を短く整理して表現する力が身に付いていないことが分かった。

## ２．取組のポイント（仮説、改善方法等）

○研究仮説

「言葉による見方・考え方」を働かせ、学び合うことで主体的に考え表現することができるだろう。

○目指す児童像

①主体的に考える児童

単に見方・考え方を意識するだけでなく、学びの系統も意識することで、前の単元で学習したことを次の単元に生かす姿。

②主体的に表現する児童

教師からの「新たな視点を与える発問」をきっかけに、学び合いの中で、進んで交流し考えを深めていく姿。

○授業改善の視点（「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」と関連させて）

①資質・能力の明確化

②新たな視点を与える発問と学び合い

③「言葉による見方・考え方」を基にした振り返り

## ３．具体的な実践

〇学習系統表の作成

単元で身に付ける資質・能力や働かせたい見方・考え方を系統表にまとめ、指導に生かしている。この系統表を活用することで、教師は指導の視点を明確にし、児童は読みの視点や身に付けた既習の読み方を自覚した上で、学びに向かうことをねらいとした。

〇新たな視点を与える発問

学習系統表に示された内容に適した発問を行うことで、その単元で身に付けたい資質・能力や働かせたい見方・考え方に則した思考が促されるようにした。また、その発問を学び合い場面と関連させて位置付けることで、学び合いの充実につなげている。

〇学び合いの充実

自分が着目した言葉や、働かせた考え方を交流させている。「聞くこと・話し合うこと」に示された話合いの系統に沿って、各学年の学び合いを進めることで、学年が上がると共に、より充実した学び合いがなされるようにしている。これらに加えて、学び合いの時間を十分に確保することや形態の工夫をすることで、充実した学び合いにしている。

## ４．成果

〇単元の導入では、児童が自らの言葉で既習事項を想起する様子が増え、学びの系統を考えながら授業に臨むことができるようになった。また、教師の発問にも、学びの系統や資質・能力を意識したものが増え、学校全体で統一感のある指導がなされている。

〇話合いの系統を意識して学び合いを設定することで、「読むこと」の学習過程における「共有」を充実させることができ、児童の深い学びにつながった。

## ◆担当指導主事から

〇令和５年度の成果と課題を踏まえ、「育てたい資質・能力の系統を意識した授業づくり」「言葉による見方・考え方を働かせた読みの学習」に「児童の思考を深める発問と学び合い」を授業改善の方策に加えての実践であった。研究の継続、授業の積み重ねにより、「見方・考え方」を働かせながら積極的に考え、表現する児童の姿や、学び合いの中で思考を広げ深める児童の姿が見られた。さらに、国語科での実践を他教科の指導に生かすなど、学校全体で組織的・継続的に取り組んだ校内研究であると考える。